

淑女検定

☑ チャレンジテーマ

箏曲

満開の桜を見上げた時、心にとふと流れる日本の伝統曲「さくら」。箏(こと)の音色は、ほのかに色付く桜の花びらのように、かれんで品格がある。日本の四季の景色にすうっとなじむ音だ。

SBS学苑
バルシェ校

今月の先生



【箏曲】講師
八木 小絹井 やぎ こきぬい
八木箏曲研究所主宰

唱歌・童謡・洋楽、ジャンルにとらわれず演奏。
正座が苦手な方は、立箏台を利用し椅子での稽古も可能

SBS学苑バルシェ校
INFORMATION

4/21(日) 10:00~12:30

麻ひもランチバッグ

講師/関根康恵(ニッポスタジオKAG|主宰)
受講料/4,068円(材料費・管理運営費込)
編み図のない、半完成キットを使用。サクサク編めて簡単! 楽しく出来上がり。
サイズ:内底直径16.5cm×幅25cm(平置き)×高さ25cm(持ち手含め)
【お問い合わせ・お申し込み】
Tel.054-253-1221

問題 1 箏(こと)と琴(こと)はどう違う?

- A. 全く同じ楽器
- B. 全く異なる楽器
- C. 素材だけが違う
- D. 長さだけが違う



問題 2 箏はある広葉樹の木で出来ている。何の木?

- A. サクラ
- B. クスノキ
- C. キリ
- D. ケヤキ

問題 3 弦は全部で13本。ドレミファ…ではなく何と呼ぶ?

- A. いち、に、さん、し
- B. ひー、ふー、みー、よー
- C. は、に、ほ、へ
- D. ツェー、デー、エー、エフ



正解 & 解説

問題 1 → 正解 B

箏と琴、いずれも「こと」と読むが、厳密に言うとき全く異なる楽器で、現在広く伝わっているのは「箏」の方。一番の違いは音の高低を調整する「柱(じ)」と呼ばれるブリッジがあるかないか。箏にはあって琴にはない。琴は指で押さえて音を調整するが、今日ではほとんど見掛けることはない。『源氏物語』では箏と琴の両方が登場する。平安時代、すでに宮中では「こと」の音が響いていた。

問題 2 → 正解 C

古くから、きりだんずなどの家具の木材としても用いられてきたキリ。国産木材の中では最も軽い。中は空洞になっているため、全長約180~190cmでも容易に持ち運ぶことができる。かつて弦は絹糸だったが、現在は丈夫なポリエステル繊維が一般的。絹は切れやすく扱いづらいが、より優しい音が出ると言われている。象牙などでできた専用の爪を、親指、人差し指、中指の腹に付けて弾く。

問題 3 → 正解 A

基本は5音階の13弦で、張られた弦の奥から順に123…と呼ぶ。例えばサクラ、サクラ～の部分は「七七八、七七八」と記される。ただし、11~13は、11=斗(と)、12=為(い)、13=巾(きん)と呼ぶ。演奏する時は正座が基本だが、最近は椅子に座って弾く人も多い。「一人でも合奏でも楽しめる楽器です。結婚式やお祝いの席で弾いたら、とってもすてきですよ」と八木先生。